

平成29年度

第67次 印旛地区教育研究集会
生活科分科会 提案資料

研究テーマ 「子どもが自ら学び共に生きる力を育む生活科の創造」

研究主題

**思いや考えをわかりやすく伝え合い、
ともに高め合う児童の育成
～コミュニケーション能力の育成を通して～**



平成29年8月23日
第1部会 佐倉市立上志津小学校
八木 純子
竹内 みき

1. 研究主題

思いや考えをわかりやすく伝え合い、ともに高め合う児童の育成 ～コミュニケーション能力の育成を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

知識基盤社会といわれる時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することができる個人になることが求められている。

(2) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」である。

学習指導要領においても言語活動の充実が重要視され、各教科において思考力・判断力・表現力を育む観点から言語活動の充実を図ることが明示され、コミュニケーションに関する能力や感性を育んだり情緒を養ったりすることが期待されている。

そして、次の学習指導要領では、生活科の目標に「具体的な活動や体験を通して、身近な生活にかかわる見方・考え方を生かし、自立した生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目指す。」とある。各教科の特性を生かし横断的な資質・能力を身に付けさせることが求められ、そのために児童が主体的に学習に参加し、考える学習方法が提案されている。

(3) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「豊かな心を持ち、自ら学ぶ意欲のある児童の育成～一人一人の個性がかがやく上志津の子～」である。そして、以下のようなめざす児童像「かがやけ」を掲げている。

自ら考え、学びとっていく子ども	(か) しこい子
健康で、がんばりのきく子ども	(が) んばる子
思いやりがあり、協力し合う子ども	(や) さしい子
礼儀正しく、やくそくを守れる子ども	(け) じめのある子

児童は、他者とのかかわりの中で、思いを実現するために自ら考えたり、行動したりする。それが一人の人間としてたくましく生きる力を育むことになると考える。

(4) 本校の児童の実態から

本校は、開校56年目の学校である。志津駅の南側に位置し、商業施設や住宅地の中にある。児童は、素直で活発な児童が多い。しかし、幼稚園や保育園は複数のところから入学しており、周りに顔見知りの児童がいない場合も多く、入学当初は、不安を訴える児童が少なくない。また、自分から物事に対して解決しようとしせず、消極的な面も見られ、自分から周りの友だちとかかわろうとしない児童もいる。そこで、入学当初は、スタートカリキュラムの一環として、ゲーム的要素を取り入れたり、異学年との交流を取り入れたりしてきた。生活科の学習の中でも、伝え合いや交流活動を意識して取り入れることで、自分の考えを広げ、更には気付きの質を高め合うことにつながると考え、本主題を設定した。

3. 研究主題について

コミュニケーション能力育成のために、課題設定をして解決法を考え、多様な考えをもとに比較検討し、まとめあげていく問題解決型の学習を推進することは欠かせない。

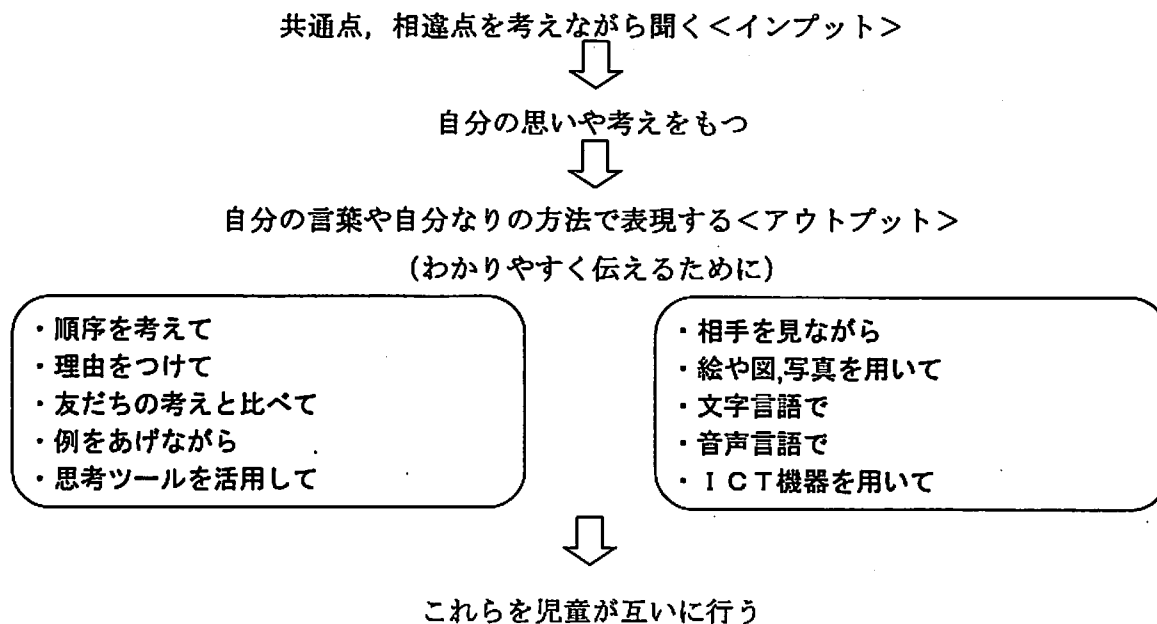
生活科の授業の中では、対象に対する直接的な体験活動を充実させ、伝え合い、交流する活動を取り入れて行くことが大切だと考える。そのためには、様々な立場の人たちと交流をもちながら、自分の気づきを広めたり、他者の気づきと自分の気づきを比較したりすることで、新たな気づきへと質を高めていくことにつなげていけるようにする。

導入段階では、児童が興味・関心をもてるような工夫をすることが考えられる。そのために、単元の学習計画を明確にして、見通しをもたせる必要がある。直接的な体験活動と表現活動を繰り返すことで、更に次の活動への意欲へとつなげていくことができるのではないかと考える。

1, 2年生の児童にとって、表現するという事は難しい面もあるので、言葉だけで伝え合ったり、絵を活用して伝え合ったり、実際に活動して見せて伝え合ったりさせる。また、伝える対象は、友だち同士や、上学年、下学年、または幼稚園児、保護者、地域の方々など様々な立場が考えられる。その立場に合わせた表現方法も学びながら習得していくことが、他教科にも活用されたり、3年生以降の学年での学習にも生かされたりしていくと考える。

問題解決型の学習を一つの教科だけでなく、どの教科・領域においても行い、さらに学習過程を工夫することが、コミュニケーション能力だけでなく、判断力や思考力、表現力など多様な能力を育成することにつながると考える。

(1)「思いや考えをわかりやすく伝え合う」について



児童が自分の考えを深めるためには、相手の話を理解することが大切である。うなずいたりメモをとったりしながら話を聞くことで、自分との共通点や相違点に気付くはずである。そこで児童は、新しいものの見方を取り入れたり、考えを見直したりすることができ、それが自分の考えを深めることにつながる。さらにそれをわかりやすく伝えることで、自分の思いや考えがより確かなものとなる。

(2)「ともに高め合う」について

- ・自分とは異なる考えに触発される
- ・もっと知りたいと思う
- ・共に解決していこうとする



- ・自分の考えを深めることができる
- ・学び合いが生まれ、思考力が高まっていく

人は、常に他者とかかわり合いながら生きている。よりよい人間関係を築くためには、自分や他者の思いや考えを整理して、互いに理解し合うコミュニケーションが重要となる。良好なコミュニケーションは、自分の考えになかったものを受け入れて自分の考えに生かしたり、相手の立場や考えを考慮し、尊重することで自らの考えや集団の考えを深めていくことにつながる。

4. 研究仮説

仮説1

自分の思いや願いをもって、直接的、具体的な学習活動を繰り返し行い、伝え合う場を工夫すれば、基礎的な思考力が高まっていくだろう。

<手立て>

○学習方法

- ①個人、ペアや少人数のグループなどでの活動の時間を十分に確保する。
- ②活動⇄表現 を繰り返して行う。

○伝え合う場の工夫

- ③多様な交流の場を設定し、友だちと交流することで、共通点や相違点に気付き、一人一人の気付きを質的に高める。(ペアで、小グループで)
- ④全体での伝え合いの場を設けることで、気付きを共有できるようにする。

仮説2

自分の考えや思いを伝えるための様々な手段や方法を具体的に示せば、相手や目的に合った表現を選択し、わかりやすく伝え合うことができるだろう。

<手立て>

○表現方法

- ①文での表現に不安のある児童もいるため、活動中は言葉や動作を中心にして相手に伝えられるようにする。活動後にカードに絵や文で表現する。
- ②個々の気付きを掲示資料にまとめ、全体で共有できるようにするとともに、次の活動にもつなげる。
- ③話の聞き方、伝え方について段階的に指導をする。(掲示物：はっぴょう名人、ききかた名人)
- ④表現をする上で必要な、内容の理解に導くための支援をする。
 - ・写真や図、絵などを大きく提示して指示を明確にする。
 - ・見せながら話して、わかりやすく説明やまとめをする。

5. 研究テーマについて

子どもが自ら学び共に生きる力を育む生活科の創造

<授業改善の視点として>

- ・活動を繰り返すことを積極的に取り入れる。
- ・幼児期に身に付けた資質・能力を生かし、円滑な教科学習への移行を工夫する。
- ・振り返りの時間を多くとり、自己を見つめる活動を積極的に取り入れ、メタ認知能力を育成する。
- ・スタートカリキュラムの作成と共に他教科との関連を図り、横断的・総合的なカリキュラムを作成する。

(1) 気づきの質を高める生活科学習づくり

- 交流活動（1年生⇄2年生，1年生→幼稚園児，保護者や地域の方々など）
- 導入の工夫（ICT機器，家族からの手紙など）
- 教材・教具の工夫（ざいりょうコーナーなど）
- 学習方法の工夫（思考ツールの活用：Xチャート，Yチャート，KJ法など）
- 発表方法の工夫（ベンチトーク，ワークショップ：紙芝居，大型絵本，巻物，ペープサート，新聞）
（ICT機器の活用：デジカメ，大型TV，パソコンなど）
- 活動⇄表現**（体験して気付いたことや発見したことを伝え合う）の繰り返し（ペアで，小グループで）
- 振り返りの活動（ワークシート，掲示資料（みつけたこと）で気づきの共有化）

(2) 育成すべき資質・能力

- めあてをもつ＝学びに向かう力
- 経験者として伝える（2年生：学校たんけん，町たんけん，栽培活動 1年生：昔の遊び）
- 交流活動を通して他者とのかかわる（高齢者や地域の方へお礼の手紙，今後の目標をもつ）
- 人とのかかわることで思いをもつ（家族やお世話になった方への感謝，期待に添うための努力）

(3) 一人一人の活動を認める評価のあり方

- 自己評価：振り返りカード→にこにこマーク，今までと比べて変わったところ，
わかったことや疑問，次への課題など
- 他者評価：友だちへ→友だちのがんばっていたところ，友だちから教えてもらったこと
自分とちがうところなど
教師から→称赞，シール，アドバイスなど

(4) 他教科及び幼保との連携の推進

- スタートカリキュラム：生活科と他教科との合科的な扱いとし，モジュールで時間を組むことで，入学直後の児童の不安や負担を軽減し，徐々に学校生活に慣れさせることを目的とする。
- 幼稚園との交流：1年「なかよしランドであそぼう」
地域の方に教えてもらった昔遊びを教えたり，校内を案内したりすることで，年下の園児とのかかわり方を学び，次年度へつなげる。
- 異学年交流：1年生と2年生は，生活科の交流から日常的なかかわりへと自然と発展する中で，充実した交流ができるようにする。また，6年生との交流や全校での縦割り活動を通し，温かいつながりがもてるようにする。
- 高齢者との交流：1年「なかよしランドであそぼう」
昔遊びを教えてもらい，感謝や尊敬の念をもてるようにする。

6. 実践例

第1学年

1 単元名 なつとなかよし ～ なつだいすき いっぱいあそぼう～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下に該当する。

生活科の内容

(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

(8) 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。

本単元では、夏ならではの遊びを中心に構成していく。水遊びやシャボン玉遊びでは、身近な物を利用したり、工夫したりして遊びを楽しむように構成していき、児童が思い切り夏を楽しめるようにしていきたい。また、友だち同士で情報交換をしながら交流する場面を設けることにより、交流する楽しさを味わい、友だちのよさにも気付くようにさせたい。

(2) 児童の実態 (男子13名、女子14名 計27名 6月13日 実施)

児童は、生活科の学習を全員が楽しいと感じている。2年生と一緒に学校探検をしたり、あさがおを植えたり、先生方とふれ合ったりする学習を経験してきた。どの学習も楽しいと感じている児童が多い。また、アサガオの成長に目を見張りながら、今後の成長を楽しみにしているところである。

夏の遊びに関しては、ほぼ全員の児童が、シャボン玉遊びを経験している。また、水遊びの経験も多く、どちらもみんなでやってみたいと思っている児童がほとんどである。

コミュニケーションに関する調査では、児童は話合ったり、自分の考えを伝えたりすることが楽しいと90%以上が感じている。また、1年生なりにいろいろな人と話をすることが大切だと90%以上が思っていることがわかった。これは、今までの交流活動の成果ではないかと考える。

(3) 指導観

仮説1

自分の思いや考えをもって、直接的、具体的な学習活動を繰り返して行い、伝え合う場を工夫すれば、基礎的な思考力が高まっていくだろう。

<手立て>

- ① 個人、ペアや少人数のグループなどでの活動の時間を十分に確保する。
- ③ 見つけたことについて意図的に伝え合える場を設ける。
- ④ 全体での伝え合いの場を設けて気付きを全体のものにできるようにする。
- ② 単元を通して、「活動と表現」を繰り返して行う。
- ③ 友だちと交流し、伝え合う活動を行うことで、共通点や相違点に気付き、一人一人の気付きを質的に高めることができるようにする。

気付きの視点として・・・道具に対する気付き、シャボン玉の飛ばせ方に関する気付きなど

仮説2

自分の考えや思いを伝えるための様々な手段や方法を具体的に示せば、相手や目的に合った表現方法を選択し、わかりやすく伝え合うことができるだろう。

<手立て>

- ① 十分に文として表現できない児童がいるので、活動中は、言葉や動作を中心にして相手に伝えられるようにする。活動後にカードに見つけたことを絵や文字で記入する。
- ② 児童各自の気付きをクラス全体に見やすくするために見つけたことの掲示物を活用する。

今年度は、入学直後からスタートカリキュラムを生活科中心に計画し実施してきた。その中でもランダムに相手を選び、自己紹介や挨拶、手遊びなどをペアで行うようにゲーム的要素を朝の会や生活科・音楽科など様々な場面で組み込んできた。児童は、自然と友だちの名前を覚え、挨拶も進んでできるようになってきた。そして段々と友だちが増えてきたところである。また、入学した当初1～2週間は児童の集中力を考えて、モジュールを活用し学習を進めてきた結果、学習の約束を覚えながら、けじめをつけて学習に取り組めるようになったと感じている。ペアや少人数での活動は、国語科で絵を見て話し合ったり、一緒に音読をしたり、算数科で絵を見ての問題作りをしたりした。図画工作科では、自分の作品の自慢をし合いベンチトークなどを活用し進めてきているので、児童は抵抗なくペアや少人数の活動を行っている。

交流活動では、2年生と生活科を中心に交流し学校探検を行ったり、アサガオを植える時に教えてもらったりしている。入学当初から6年生とは、朝の読書で読み聞かせをしてもらったり、給食時には、配膳片付けの手伝いをしてもらったり、一緒に給食を食べたりしている。このような交流活動は、1年生の児童にとっては、学校生活を楽しく送り、落ち着いて生活ができるようになるための一助となっていると考える。

1年生の今の時期は、幼稚園や家庭での今までの経験の差が児童の活動に影響する。生活科の活動においても同様である。そこで本単元では、幼稚園の頃から楽しんできたシャボン玉遊びを中心に夏の遊びを進めていきたい。シャボン玉を作るのに、身近にある道具を使うことで自分なりに考えたり、遊び方を工夫したりできる。活動の時間を十分に確保していけば、「もっと〇〇したい」「こうなりたい」という思いや願いが各自の課題につながる。試行錯誤を繰り返し、条件を変えて試してみたり、何度も挑戦したりしていくことが遊びの特徴や決まりなどの気付きの質を高めていくことにつながると考える。活動と伝え合いを繰り返し行い、関わり合う活動も多く取り入れていくことで、気付きが全体に広まるようにしたい。

児童は「やってみたい」という意欲だけでなく、友だち同士「みて」と自然に関わり合うだろう。自分が見つけたことは、誰かに伝えたくて仕方がない児童が多い。その相手は、身近な大人である教師だったり、友だちだったりする。この「話をしたい」という意欲が損なわないように十分に話ができるように、一人の活動だけでなく、友だちと一緒に考えたり、教え合ったりして楽しんで遊び、協働学習につながるように進めていきたい。

水遊びについては、水泳の学習（体育科）を利用し、プールで思う存分に遊ばせる。色水遊びや押し花などは、児童のあさがおの咲く時期が異なるので、その都度遊ばせるようにしていく。

これから始まる夏休みに、各自が家庭でもう一度遊びたいと思えるような学習にしていきたい。

3. 単元の目標

- | | |
|--------------------|---|
| ＜生活への関心・意欲・態度＞ | シャボン玉遊びや水遊びなど夏の遊びに関心をもち、楽しもうとする。 |
| ＜活動や体験についての思考・表現＞ | 身の回りの物を使って遊びの準備をしたり計画を立てたりすることができる。 |
| ＜身近な環境や自分についての気付き＞ | 身の回りの物を使って遊ぶ道具ができることに気付き、道具や使い方によって違いがあることに気付くことができる。 |

4. 指導計画 (9時間扱い 本時 6/ 9)

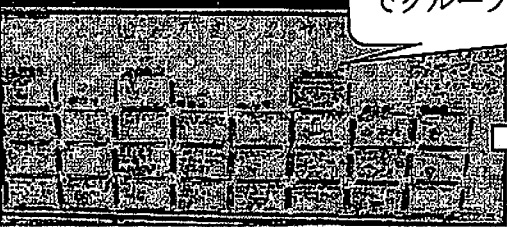
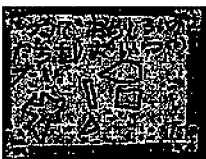
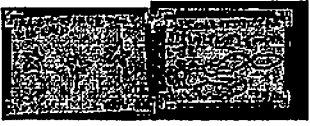
小単元名	時配	主な学習活動	評価規準
なつのあそびいろいろした いね (3)	1	・夏にふさわしい遊びをみんなで考える。	・夏の遊びに興味をもとうとしている。 ＜関・意・態＞（行動・発言）
	1	・水遊び（水泳学習と兼ねて行う時間は体育）・砂遊び・アサガオの花を使った色水遊びや押し花、たたき染めなど（適宜）をして楽しむ。	・夏の遊びに興味をもち進んで関わろうとしている。 ＜関・意・態＞（行動・発言）
	1	・シャボン玉で遊ぶ動機づけとしてシャボン玉で絵を描く。 （図画工作科でも扱う）	・シャボン玉遊びに興味をもとうとしている。 ＜関・意・態＞（行動・発言）
しゃぼんだまだいすき (4)	1	・シャボン玉をつくって遊ぶ。	・シャボン玉遊びに興味をもって進んで遊ぼうとしている。 ＜関・意・態＞（行動・発言）
	1	・更につくりたいシャボン玉を考えたり、道具を工夫したりする。	・自分の作りたいシャボン玉をどのようにつくればよいかを考えながらつくっている。 ＜思・表＞（行動）
	2 (1/2) 本時	・つくりたいシャボン玉をつくって遊ぶ。工夫したことや発見したことを発表する。	・遊びながら、どんな道具を使うとどんなシャボン玉ができるかに気付くことができる。 ＜気付き＞（記録・発言） ・シャボン玉遊びに興味をもち、進んで遊ぼうとしている。 ＜関・意・態＞（行動・発言）
なっだ いすき (2)	1	・1年生みんなでシャボン玉大会を開く。	・友だちのよさ、自分との違いに気付くことができる。 ＜気付き＞（記録・発言）
	1	・活動を振り返りながら、振り返りカードや作文などで自分の思い出をまとめる。 （国語科でも扱う）	・活動を振り返り、自分なりの方法で表現している。 ＜思・表＞（記録）

5. 本時の指導 (6/9)

(1) 目標

- ・シャボン玉遊びに興味をもって進んで遊ぼうとする。（生活科への関心・意欲・態度）
- ・シャボン玉のおもしろさや不思議さに気付くことができる。
（身近な環境や自分についての気付き）

(2) 展開

学習内容と学習活動	指導・支援 (○) 評価 (●)	資料
1 本時のめあてを確認する。 場所やあそびの約束の確認をする。 ○各自のめあてを確認する。 めあての似ている児童同士でグループ編成をする。  しゃぼんだまであそぼう。	○本時のめあてや学習の進め方を確認する。 めあての例：自分の思いを文や絵で表している。  	ホワイトボード
2 小グループで作ってみたいシャボン玉を作って遊ぶ。 (おあそびタイム) 仮説1 手立て① 個人、ペアや少人数のグループなどでの活動の時間を十分に確保する。  大きいのができたね。 すごいね、わたしもたってみよう。  なかなかうまくできないな。 ほら見て、大きいのができたよ。すごいでしょ。	○道具や場所を考えて遊ぶ・ように助言する。 ○うまくいかないことは友達に聞いたり、教師に聞いたりしていろいろと試してみる。 ○周りの様子に気をつけて、ぶつからないようにさせる。 ●シャボン玉遊びに興味をもって進んで遊ぼうとしているか。 (関心・意欲・態度)	モール段ボール牛乳パック針がねストロー空き容器シャボン液
○3人で、話し合う。(おはなしタイム) 仮説1 手立て② 見つけたことについて意図的に伝え合える場を設ける。 ・小グループでの伝え合い →自分たちが上手くできたことやうまくいかなかったことなどを話し合う  うちわでやったら、きれいなのがたくさんできたよ。	道具に対する気付きや吹き方や飛ばせ方に対する気付きが見られ、「お話タイム」で伝え合うことができていた。	



段ボールでそうっとやったら、大きいのができたよ。

最初はうまくできなかったけど、段ボールでできた。



息をずっと吹いていたら、大きいのができた。

ぼくもペットボトルずっと吹いてたよ。

ペットボトルでやってたけど、うまくできなかった。

やさしくフーッと手で動かすといいよって教えてあげてるんだけど・・・。

各自の思いや願いが似ている子どもたちのグループごとにしたので、「おはなしタイム」での話し合いがスムーズにできた。

○（おあそびタイム2）

仮説1 手立て②

「活動と表現」を繰り返して行う。



わあすごい！
たくさんできたよ。

活動と活動の合間に「おはなしタイム」を設けたことで、2回目の活動に深まりが見られ、教え合いが1回目の活動の時より多く見られた。

3 シャボン玉をつくるのに工夫したことや気付いたことを発表し合う。

○友だちと話したことをもとに更に工夫してシャボン玉遊びをする。

仮説1 手立て③

友だちと交流し、伝え合う活動を行うことで、共通点や相違点に気付き、一人一人の気づきを質的に高めることができるようにする。

・気づきの視点として→道具に対する気づき

シャボン玉の飛ばせ方に関する気づきなど



モールに、シャボン玉液をたくさんつけたら、大きいのができました。



うちわを使ってつくったら、大きいのがうちわの上でおどってるみたいでした。

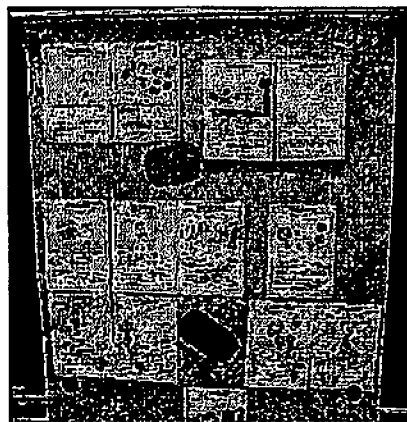
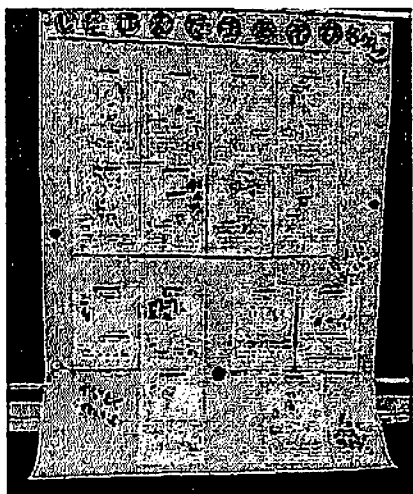
○全体で、発表し合うことで、気づきを広げるようにする。

●シャボン玉のおもしろさや不思議さに気付くことができたか。（気づき）

各自の気づきの発表を全体に広めたことで、次への意欲をもつことができた。

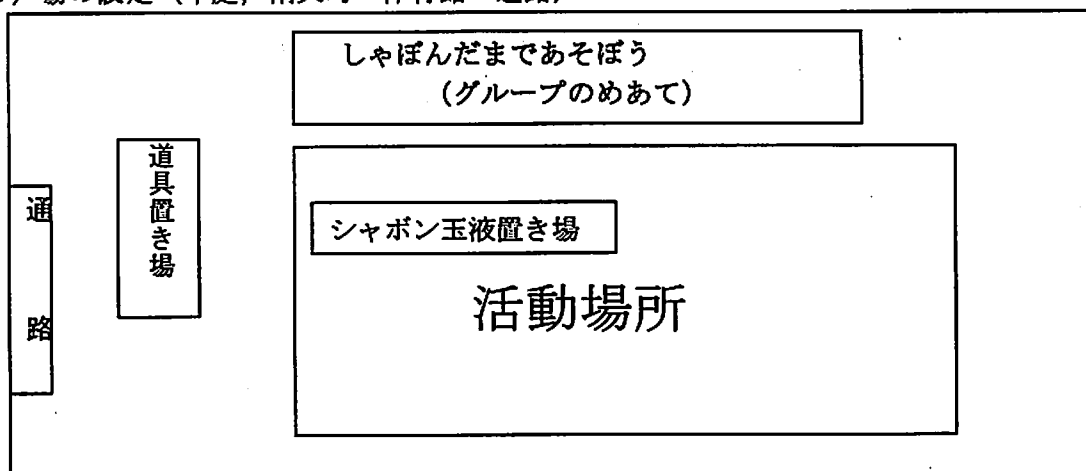
仮説2 手立て②

児童各自の気づきをクラス全体に見やすくするために見つけたことを掲示物としてまとめ、活用する。



児童の気づきを整理して掲示することで、活動の時に活かすことができた。

(3) 場の設定 (中庭, 雨天時 体育館・通路)



成果〇と課題●

<仮説1について>

- 各自の思いを掲示してあったので、児童の思いや願いを明確にして活動に取り組むことができた。
- 身近な材料を工夫して使っていたので、活動に広がりがあり、繰り返しの活動につながった。
- グループで活動をしている中で、児童同士が「できた」や「おすごい！」などを自然に発していた。励まし合いながらの活動ができていた。
- 「おはなしタイム」では、上手にできたことや上手にできなかったことなどの自分の体験を他の児童に積極的に伝えていた。

●全体の発表の時、児童の気づきや疑問などを整理して、板書をして記録に残しておくことと次の活動につながる。

<仮説2について>

- 「何(道具)でどのようにふいたら、こんなのできた。」という伝え方のマニュアルができていて、上手に伝え合っていた。
- 児童の気づきを整理して掲示しておいたことで、活動の参考にして取り組む姿が見られた。
- うまくいかなかったことに対して、全体に投げかけてみんなに広げていくとよかった。

今回の実践を終えて、アンケートを実施した。その結果、シャボン玉遊びが楽しかったと回答した児童は、100%だった。

シャボン玉遊びで楽しかったこと

いろいろな道具を使ったこと	楽しかった85%
グループの友だちと遊んだこと	89%
グループの友だちに教えてあげたこと	48%
グループの友だちに教えてもらったこと	44%
グループの友だちと道具を交換して遊んだこと	70%
遊んでいろいろなことを発見できたこと	89%

以上のように、友だちと一緒にグループで活動ができたことを楽しかったと感じる児童が多いことがわかった。入学して3カ月でまだ自分中心のところが多い児童ではあるが、友だちと一緒に活動することの楽しさを味わえたのは、道具を交換して活動したことが楽しいと感じる児童が多いことでもわかる。

友だちに教えてあげたり、教えてもらったりした活動そのこと自体を楽しんでいるまでは半数の児童がいないのがわかる。この時期の児童は、活動自体の楽しさは感じるが、教える楽しさや教えてもらう楽しさを感じるは難しいのかもしれない。今後の様々な関わりの中で感じていくことを期待したい。

様々な発見（気づき）ができたことは活動の楽しさに結びついていて、次の活動へとつながっている。

第2学年

1 単元名 はっけん くふうおもちゃ作り ～めざせ おもちゃはかせ～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下に該当する。

生活科の内容

(6) 身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

本単元では、身の回りの物を使っておもちゃを作り、遊ぶことを通して、動いたり音がでたりすることの面白さや不思議さに気付くことができることをねらいとしている。

おもちゃ作りでは、製作にあまり時間をかけず、簡単にできるものを精選し、様々なおもちゃを体験させるようにし、児童が思い切り楽しめるようにしていきたい。また、風や空気、ゴムといった自然や身近にある素材を活用することで、「こんなふうにするとうなる」「今度はこうしてみよう」という視点がもてる活動へとつなげていきたい。活動をする際には、児童同士が情報交換をしたり教え合ったりする場面を設定し、友だちと交流する楽しさやよさにも気付くようにさせたい。

(2) 児童の実態(男子10名、女子13名、計23名 9月26日 実施)

コミュニケーションに関する調査では、自分の思いや考えを人に話すことが楽しいと思う児童はわずか3人だった。9割の児童が、話し合ったり、自分の考えを伝えたりすることに消極的であることがわかった。一方で、自分の考えをもっと上手く伝えたいという問いには、全員が思うと回答している。自分の思いや考えを伝えることに苦手意識はあるが、伝えたいという思いはあるようだ。授業中の様子でも、教師の発問に対して進んで挙手をする児童は少ないが、ノートには自分の考えをたくさん書いている児童は多い。

生活科の学習については、全員が楽しいと感じている。理由では、ヤゴやザリガニの世話、町探検、野菜の収穫など、これまでに学習した内容がすべて網羅されていた。1年生と交流したアサガオの種まきや生き物博士のことも、多くの児童が楽しかったと感じている。

おもちゃ作りは、ほとんどの児童が経験していたが、動いたり音がしたりするおもちゃ作りについてはわずかであった。

(3) 指導観

仮説1

自分の思いや願いをもって、直接的、具体的な学習活動を繰り返し行い、伝え合う場を工夫すれば、基礎的な思考力が高まっていくだろう。

<手立て>

- ① ③少人数のグループでの活動の時間を十分に確保し、意図的に伝え合う場を設けることによって、発見したことを友だちと交流し合うことができるようにする。
- ④ 全体での伝え合う場を設け、うまくいったこと、うまくいかなかったことを共有することで、次の活動へのめあてを明確にして、新たな工夫を考えられるようにする。
- ② 単元を通して、「作る、遊ぶ、伝え合う」を繰り返して行うようにし、気付きの質を高める。

仮説2

自分の考えや思いを伝えるための様々な手段や方法を具体的に示せば、相手や目的に合った表現方法を選択し、わかりやすく伝え合うことができるだろう。

<手立て>

- ① 言葉で表現することが苦手な児童がいるので、活動の中で気付いたことを振り返りカードに書いて、それを伝えられるようにする。
- ② 次の活動に活用できるように、個々の気付きを、「おもちゃはかせ伝言版」に掲示して、自分や友だちの思いを交流できるようにする。

本学級の児童は、話すことへの苦手意識をもっている児童が多い。その理由としては、「うまく言えない」「どうやって話せばいいのかわからない」をあげている。そこで、言葉の使い方や話し合いの仕方のスキルなど、国語科を中心に様々な場面で取り組んできた。生活科の学習においても、1年生との交流活動において、一生懸命説明したり教えたりする姿が見られるようになり、話すことに少しずつ自信をつけている児童が増えてきた。こうした状況の中で、本単元の学習を通して更に、話すことに自信をもち、自分の思いや考えを伝え話し合うことの楽しさを味わわせたいと考える。

児童は、おもちゃで遊ぶことが大好きである。1年生の季節の単元などで行った、落ち葉や木の実を使ったおもちゃ作りなども楽しく活動してきた。本単元では、3年生以降の理科とのつながりを意識した、動いたり音がしたりするおもちゃ作りを行う。動くおもちゃとなれば遊び方にも広がりが出るだろうし、動く仕組みにも興味をもつことだろう。児童にとってのわくわく感が失われないよう、単元を通して「作る、遊ぶ、試す」を意識して取り組みたい。

単元構成としては、2つの小単元になっている。まず、「おもちゃを作ってみよう」では、自分たちが遊んだことがあるおもちゃを思い出しながら、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作ってみる活動に入る。ここでは、簡単にできて楽しめるおもちゃを精選し、児童の制作時間に差がでないものにする。また、工夫しやすい素材のものとして、風やゴムの力で動くおもちゃを中心に選ぶことにする。作ったもので遊ぶ時間を十分に確保し、遊びを通して、友だちとの交流ができるようにしたい。友だちと一緒に遊ぶ中で、自然発生的に感じる動きの違いを見付けたり比べたりできるようにする。そして、振り返りカードで「もっと〇〇になるといいな」という思いを、きちんと書き込めるようにし、次時の活動へとつなげていく。児童の気付きは、吹き出しカードに書き、掲示する。掲示することで、友だちとも共有できるようにし、自分の気付きに自信をもたせるようにしたい。さらには、「今度はこうしてみよう」という活動への視点を明確にするものとしても活用させたいと考える。

次に「おもちゃのひみつはっけん」では、これまでに作ったおもちゃの中から、もっと工夫したい、と思ったおもちゃを選び、博士になるためのおもちゃ作りをする。活動のめあてを明確にするために、まず、設計図を書き、「こんなおもちゃにしたい」という願いや思いをもたせる。自分の思いに合ったおもちゃを完成させようとなれば、部品を増やしたり素材を変えたり等、様々な気付きが出てくるだろう。そして、グループの友だちとの気付きを交流し合う時間を充実させることで、質の高い気付きになっていくようにしたい。遊びにも広がりができ、友だちと交流し合う楽しさにも気付かせたい。

単元のまとめの活動として、「おもちゃ大会をひらこう」という場を設定し、1年生におもちゃを紹介する。また、1年生と一緒に作ったり遊んだりしながら、作り方のこつや遊び方のこつなどをこれまでの自分が経験した言葉として伝えられるよう、自信をもって取り組ませたい。

3 単元の目標

<生活への関心・意欲・態度>

身近な材料を使ったおもちゃ作りに関心をもち、楽しく遊ぼうとする。

<活動や体験についての思考・表現>

どんなおもちゃを作ろうかを考え決めている。

早く、遠く、面白くなど思いや願を達成するための方法を考え試すことができる。

<身近な環境や自分についての気付き>

風やゴム、磁石などの力に気付くことができる。

自分で作ったおもちゃで遊ぶ楽しさに気付くことができる。

4 指導計画 (11時間扱い 本時 5/11)

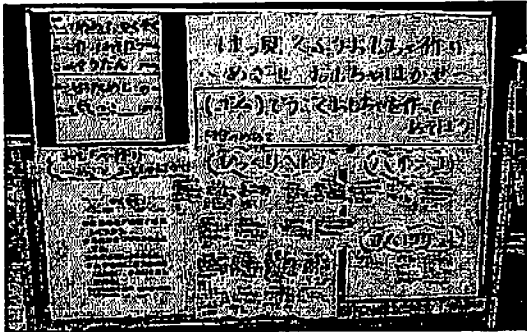
小単元名	時配	主な学習活動	評価規準
おもちゃを作ってみよう (6)	1 5 本時 (4/5)	・これまでに作ったおもちゃや教科書を参考にしながら、作りたいおもちゃを考える。 ・身の回りの材料を使って、動くおもちゃや音の出るおもちゃを作り、友だちと交流し合いながら楽しく遊ぶ。 風で動くもの (紙とんぼ, ほかけ車, CD車) 磁石で動くもの (おさかなばっくん, グラグラ) 空気で動くもの (エアーカーリング, 空気ほう) ゴムで動くもの (ゴムロケット, パチンコ) (人工衛星, トランポリン) 音がでるもの (音楽科で扱う) (かんぶえ, 怪獣スピーカー)	・おもちゃ作りを楽しみにし、進んで準備しようとしている。 ＜関・意・態＞ (行動・発言) ・身近な材料から自分でおもちゃを作って楽しもうとしている。 ＜関・意・態＞ (行動) ・動いたり音がでたりするしくみを考えながら、比べたり試したりしている。 ＜思・表＞ (行動・発言) ・身近な材料を使っていろいろなおもちゃをつくることができ、面白さや不思議さに気付いている。 ＜気付き＞ (記録・発言)
おもちゃのひみつはっけん (4)	1 2 1	・今までのおもちゃ作りの中から、おもちゃ博士になりたいおもちゃの設計図を書く。 ・遊びながら自分のおもちゃを試し、目指すおもちゃにするためにはどうしたらよいかを考えながら改良を加える。 ・気付いたことをおもちゃ博士カードにまとめる。	・もっと楽しく遊びたいという意欲をもって設計図を書こうとしている。 ＜関・意・態＞ (行動・発言) ・どうすれば、自分が目指すおもちゃを作ることができるかを考え、友だちの工夫を取り入れている。 ＜思・表＞ (行動・発言) ・友だちと交流し合う中で、楽しいおもちゃ作りや遊びができたことに気付いている。 ＜気付き＞ (記録・発言)
おもちゃ大会を開こう (1)	1	・1年生を招待し、自分のおもちゃ作りの工夫やこつを教えながら一緒に楽しく遊ぶ。	・1年生を招待し、おもちゃ大会を開くことを楽しもうとしている。 ＜関・意・態＞ (行動・発言) ・自分のおもちゃ作りの工夫やこつを伝えながら、楽しく遊んでいる。 ＜思・表＞ (行動・発言)

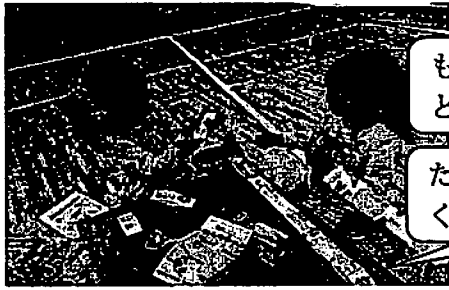
5 本時の指導 (5/11)

(1) 目標

- ・ゴムで動くおもちゃに興味をもち、進んでおもちゃを作ったり遊んだりする。
(生活への関心・意欲・態度)
- ・ゴムのおもしろさや不思議さに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(2) 展開

学習内容と学習活動	指導・支援(○)評価(●)	資料
1 本時のめあてを確認する。 場所や遊びの約束を確認する。 ○どんなおもちゃを作りたいか、自分のめあてを確認する  同じおもちゃを作りたい児童同士、更には話し合い活動の充実も考慮して、グループを編成する。 ・ロケットを高くとばしたいな。 ・速いジェットカーにしたいな。 ゴムで動くおもちゃを作ってあそぼう 2 作りたいおもちゃごとにグループに分かれ、設計図を見ながらおもちゃを作って遊ぶ。	○本時のめあてや学習の進め方を確認する。	遊ぶ約束の掲示物
仮説1 手立て① 個人、ペアや少人数のグループなどでの活動の時間を十分に確保する。 ○<作ってあそぼうタイム>  うまく切れないなあ。 わたしが手つだってあげるよ。  しっかりつけるといいよ。ぼくがおさえてあげるね。 ○<そうだんタイム> 上手くできたことやできなかったことについてグループで伝え合う。 仮説1 手立て③ 見付けたことについて意図的に伝え合う場を設けることによって、友だちと交流し合うことができるようにする。	○作業時の道具の使い方や遊ぶ時の場所など、安全面について助言する。 ○「すごいね」「高くとんでるね」など、思ったことを言葉に出して、交流し合うように助言する。 ●ゴムで動くおもちゃに興味をもち、進んでおもちゃを作ろうとしたり遊ぼうとしたりしているか。 (関心・意欲・態度)	おもちゃ博士カード(設計図) 気付き吹き出しカードの掲示物



もっといきおいよく
とばしたいな。

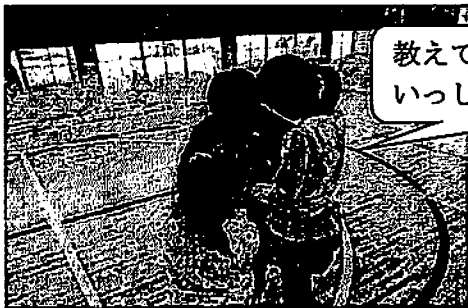
たくさんつなげて長
くするといいよ。

○<おためしタイム>

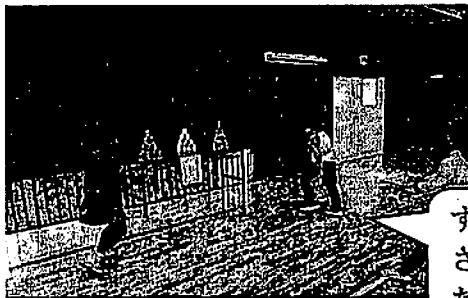
友だちのアドバイスをもとに、おもちゃを改良したり修理したりする。

仮説1 手立て②

作る→遊ぶ→伝え合う を繰り返して行うようにし、気付きの質を高める。



教えてあげるよ。
いっしょにやってみよう。



すごいね。
さっきよりたくさん当
たったよ。

- 3 ゴムで動くおもちゃ作りで工夫したことや気付いたことを振り返りカードに書き、発表する。

仮説1 手立て④

全体での伝え合いの場を設け、うまくいったことやうまくいかなかったことを共有することで、次の活動へのめあてを明確にして、新たな工夫を考えられるようにする。

仮説2 手立て①

言葉で表現することが苦手な児童がいるので、活動の中で気付いたことを振り返りカードに書いて、それを伝えられるようにする。

○うまくいったこと、うまくいかなかったことを伝え合い、グループで教え合うようにする。

○友だちに教えてもらったことをもとに、更に工夫しておもちゃ遊びをする。

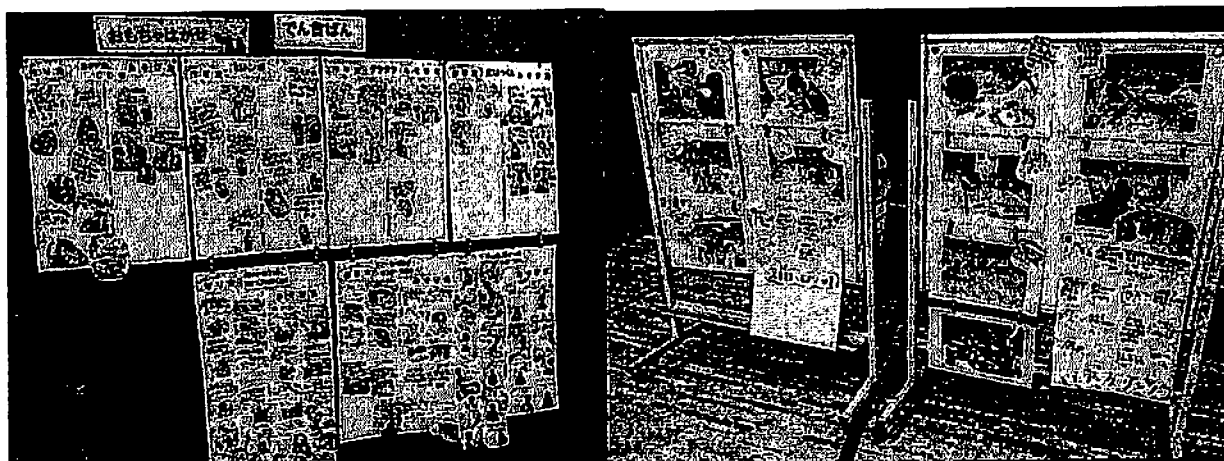
○友だちに教えてもらったことや楽しかったことを書くようにし、発表することで気付きを全体に広げる。

●ゴムを増やしたり種類を変えたりすることで、動きの違いを見付け、ゴムのおもしろさや不思議さに気付くことができたか。(気付き)

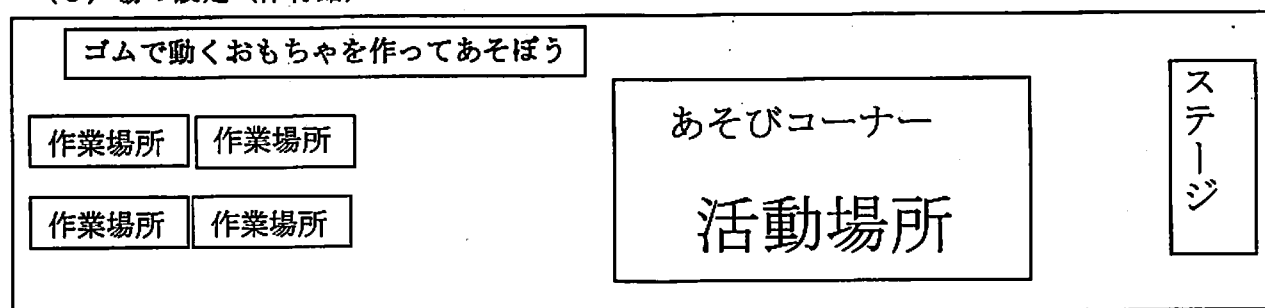
おもちゃ博士カード
(振り返り)

仮説2 手立て②

次の活動に活用できるように、個々の気付きを、「おもちゃはかせ伝言板」に掲示して、自分や友だちの思いを交流できるようにする。



(3) 場の設定 (体育館)



成果〇と課題●

<仮説1について>

- 同じものを作る少人数のグループにしたことで、見合ったり教え合ったりする姿が見られた。
- 目指す「おもちゃはかせ」のイメージを写真や言葉で掲示したことで、そのためにはどうしたらよいか、といった自分の思いや、めあてを明確にして取り組むことができた。
- 毎時間の振り返りカードに、励ましの言葉やシールを貼ったことで、次時へのめあてが明確になっていた。
- 遊ぶ時間を十分に確保したことで、つぶやきが多くなり、自然と会話が生まれていた。また、遊び方を競い合ったり工夫したりするようになり、活動が深まった。
- 活動と活動の合間に「そうだんタイム」を意図的に設けたことで、気付いたことを伝え合うことができた。
- 活動が十分にできたことで、児童に満足感があり、全体での伝え合いも進んで話す児童が多かった。
- 材料コーナーを設けたことで、改良したり工夫したりすることが活動の中に取り入れられた。
- 作る部分では、どうしても作業に個人差があるので、遊ぶ時間を確保するための時間配分や作業内容を工夫する必要がある。

<仮説2について>

- 「でん言ばん」で写真付きの気付きを掲示したことで、作り方や遊び方の様子がよく分かった。
- 教え合いの様子を写真で掲示したことで、伝え合うことの大切さやがんばろうという意欲をもつことができた。
- 個々の振り返りをカードに書く時間を十分に確保できると、次時のめあてや意欲につながる。

7. 成果と課題 成果○ 課題●

仮説1

自分の思いや願いをもって、直接的、具体的な学習活動を繰り返し行い、伝え合う場を工夫すれば、基礎的な思考力が高まっていくだろう。

<学習方法>

- 個人や少人数での活動時間を十分に確保することで、各自の活動に満足感を感じ、自然に見合ったり、教え合ったりする姿が見られるようになった。
- 単元を通して活動⇔表現を繰り返すことで、「もっとやりたい。」「次はこうしたい。」などの活動意欲へとつなげることができた。

<伝え合う場の工夫>

- 活動の途中で伝え合う場を設定したことで、うまくいったことやいかなかったことを話し合ったり、教え合ったりしながら、互いの気づきについて広めることができた。また、次の活動での児童相互のかかわりが深まった。
- 全体で伝え合う場を設け、教師が言葉掛けをしていくことで、友だちの意見や発表などを参考にし、自分の考えを深め、一つ一つの気づきから関連付けられた気づきへと質的に高めることができた。
- 全体で伝え合う場では、児童の気づきや疑問などを整理して板書することで、次の活動につなげ、更に気づきを広げ、深められるようにしたい。

仮説2

自分の考えや思いを伝えるための様々な手段や方法を具体的に示せば、相手や目的に合った表現を選択し、わかりやすく伝え合うことができるだろう。

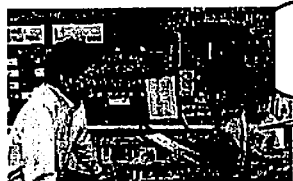
<表現方法>

- 各自のめあてや気づきを掲示しておくことで、全体で共有することができ、次の活動の意欲へとつなげることができた。
- 言葉や実物、動作などで相手に伝えることを中心に、伝え合う活動を積み重ねてきたことで、活動中は「おはなしタイム」や「そうだんタイム」だけでなく、活動しながら自然に伝え合うことができるようになってきた。また、互いの道具を交換して遊ぶ姿も見られるようになった。
- 個々の振り返りの時間を十分に設けることで、次の活動への意欲や課題につなげられるようにしたい。

資料①

生活科年間計画

交流活動計画

月	1 学年	2 学年
4	わたしのがっこうどんなどころ 2ねんせいとなかよし  めいしをこうか んしょうね。 がっこうたんけん①  つぎは、どこのきょう しつにいきたい？ がっこうたんけん③ せんせいとなかよし  せんせいのなまえをおしえてください。 サインをしてください。  せんせいのなまえをおしえてください。 じゃんけんをしてください。	2 年生になったよ 1 年生と 2 年生の 「なかよしかい」  がっこうたんけん②  むずかしそうな べんきょうだね。
5	はなややさいをそだてよう あさがおの種まき・お世話の仕方 (1 年生←2 年生)  みずやりはこれで いいの？	花ややさいをそだてよう たねを 5 つうえれば いいんだよ。 

野菜を育てたことを調べたことを絵日記や紙芝居などにまとめ、ベンチトークで交流した。



(26年度実践)



(26年度実践)

春の町ではっけん

春の町をたんけんして発見したことを絵地図にまとめ、ベンチトークで交流した。



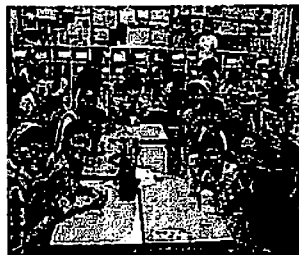
よもぎだんごづくり
(保護者・地域との交流)

ちいきの先生に教えてもらい、お家の人といっしょに作ったら、おいしいよもぎだんごができたよ。



9 あきとなかよし

お月見会 (保護者との交流)

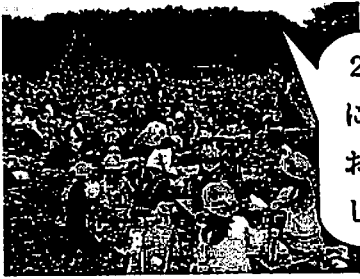


町の人につたえたい

おだんごをこねるのって
おもしろいね。

10

なかよしランド（1，2年合同校外学習）



2年生といっしょ
にあそんだり，
お弁当をたべたり
してたのしいね。



1年生気をつ
けており
てきてね。

11

町にははっけんがいっぱい

町たんけん（保護者・地域との交流）

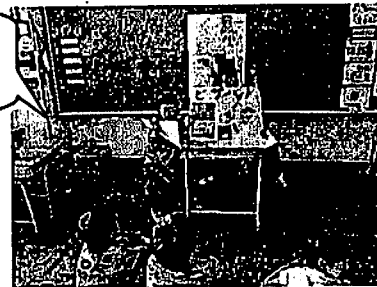


お手つだいしてくださって，
ありがとうございました。

町の人につたえたい

町たんけん発表会
（保護者・地域との交流）

ぼくたちのグループは，
マップにまとめました。



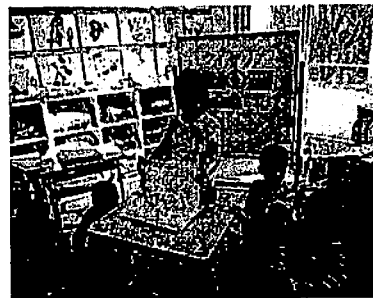
12 なかよしランドであそぼう

昔あそび・給食交流会
（地域のお年寄りとの交流）



つぎはどうや
るの？

いっしょにたべ
るとおいしいね。



		おもちゃのひみつはっけん
	おもちゃランド (1年生←2年生)	
	こうやるとうまくできるよ。 やってごらん。 上手にできているよ。 すごいね。	 
1	ふゆとなかよし なかよしランド(幼稚園生との交流)	
		みてみて。おしえてあげるよ。 いっしょにあそぼう。
2	もうすぐ2年生 できるようになったよはっぴょうかい (保護者・地域との交流)	おいでよ自分のはっけん発表会 自分のはっけん発表会 (保護者・地域との交流)
3		

資料②（職員会議提案資料）

スタートカリキュラムについて

1. 目的

新1年生が小学校入学期にスムーズに小学校生活をスタートさせることができるようにする。

2. 作成にあたって

①合科的な扱い・モジュール扱い・生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫
生活科を中心として

②学年合同のなかよしタイムの工夫（朝の会）
合同での歌や簡単なレクなど

③異学年との交流（6年，2年など）
朝の支度・朝の読書・掃除の仕方・給食の手伝い・学校案内など
学校たんけん（他学年の学習の様子を見せてもらう）

④1学年担任以外の職員とのチームティーチングの工夫
7年生の教諭による補助・養護教諭によるトイレ使用について，栄養士による給食について，管理職による学校紹介など

⑤幼稚園や保育園などとの連携（アンケート・遊び，歌を取り入れるなど）
保護者の不安・・・担任と話す機会が少ない。
給食の時間が短い。

3. その他

スタートカリキュラムは，1学年の担任だけが行うのではなく，学校全体で協力して進めていく。

平成28年度スタートカリキュラム

第1週

	4/11 (月)	12 (火)	13 (水)	14 (木)	15 (金)	16 (土)
	短縮3	短縮3 6年生手伝い	短縮4	短縮4	短縮4	短縮日課 授業参観
朝 読	ランドセルの入れ方 防災頭巾の付け方 ロッカーの入れ方	6年生による 読み聞かせ				→
朝 の 会	挨拶の仕方 健康観察・返事の 仕方 手遊び歌	挨拶の仕方 健康観察・返事 の仕方 手遊び歌	挨拶の仕方 健康観察・返事 の仕方 手遊び歌	挨拶の仕方 健康観察・返事 の仕方 手遊び歌	挨拶の仕方 健康観察・返 事の仕方 手遊び歌	挨拶の仕方 健康観察・返 事の仕方 手遊び歌
1	生 学 なかよくなろう トイレの使い方 手洗いの仕方 (養護教諭) ぞうきんのかけ方	図 学 自分の好きなもの 地区について知る 地区ごとに並ぶ	音 生 校歌 知っている歌 校内を歩こう	算 なかまづくり 体操服に着替える	国 学 なかよし 体操服に着替える 避難訓練につ いて	算 生 校内を歩こう なかまづくり
2	国 音 鉛筆の持ち方 プリント 知っている歌		国 なかよし	身体測定 身長 体重 視力	避難訓練	図 粘土
3	学 生 下校の並び順 安全な歩き方 連絡帳	音 学 校歌 (音楽専科) 連絡帳	算 国 なかまづくり プリント	身体測定 体 聴力 並び方 遊具の使い方	体 並び方 遊具の使い方	算 給食の準備の 仕方 連絡帳
4	下校11:40	下校11:40		図		道
			給食当番 給食の準備の仕 方 (栄養士) 連絡帳	自分の好きなもの 給食の準備の仕 方 連絡帳	給食の準備の 仕方 連絡帳	がっこうだい すき
給 食						
昼 休 み			帰りの支度	帰りの支度	帰りの支度	
そ う じ			1:40下校	1:40下校	1:40下校	1:40下校
5						

スタートカリキュラムでの活動

初めての給食



初めての給食に向けて、栄養士から準備や給食の食べ方などの指導を受けた。

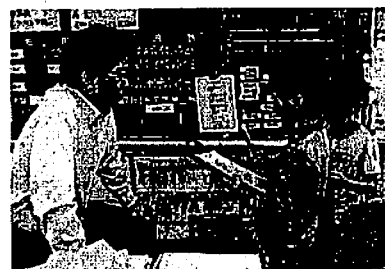


初めての給食当番は6年生のお兄さんやお姉さんに手伝ってもらって行った。また、7年生の先生方に手伝いをお願いしてスムーズに行うことができた。

3回目の学校探検（先生方となかよくなるう）



3回目の学校探検はペアで行い、先生方とふれ合う活動を行った。先生方に自己紹介をし、ジャンケンやサイン、好きな教科を聞くなどの中から各自が選んで取り組んだ。



外部講師による手洗い指導



♪おねがい、おねがいかめさん・・・♪
手洗いの歌に合わせて手洗いの練習をした。

2年生との交流活動の様子



「なかよしかい」では、名刺交換をしたり、かもつれっしやゲームをしたりして楽しく交流することができた。



2年生が昨年の活動を思い出しながら、1年生に種のまきかたを優しく教えてあげることができた。

1. 研究主題

地域に愛着をもてる児童の育成 ～この町大好き大作戦！～

2. 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。」である。またこれを受け、生活科の内容(3)では、「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」としている。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は、以下の通りである。

確かな学力を持ち、創造力・実践力のある心身ともにたくましい子どもの育成
～夢・挑戦・感動の志教育～

学習においては、一人一人が主体的に活動に取り組み、問題解決に向けて取り組む姿を目指している。このような児童像を実現するには、「知識をつなげ、学びを広げる学習素材」を仕組むことが大切であると考え。

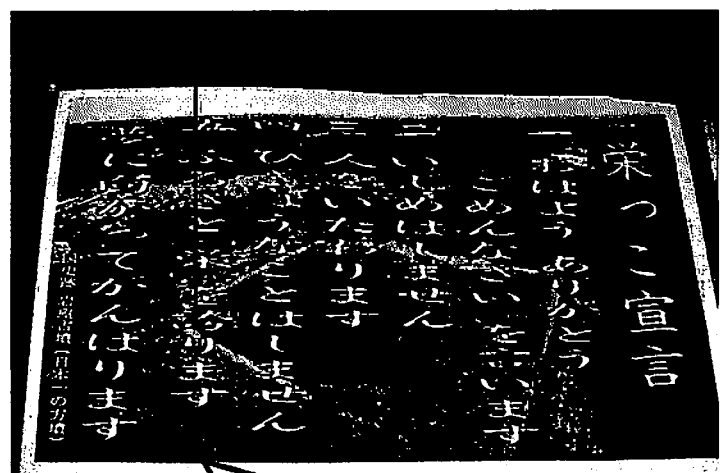
また、本校は平成27年度の3校統合により、児童は酒直・北辺田・安食台の3つの学区から登校している。それぞれの地域には豊かな自然と、古くから受け継がれてきた異なる歴史や文化がある。生活科の学習では、このような地域の「人・もの・こと」を学習素材として設定することで、確かな学びを育てていきたいと考え、本主題を設定した。

【特色ある教育活動】

栄町の魅力再発見

- 1年生 : むかしあそび・幼小交流
- 2年生 : さかえ町たんけん
- 3年生 : 下総栄太鼓・龍伝説
- 4年生 : 栄町の昔話
- 5年生 : 北辺田獅子舞・矢口獅子舞
- 6年生 : 夢・仕事ぴったり体験

毎朝唱和「栄っ子宣言」



ふるさと「栄」を誇れる
児童に！！

3. 研究仮説について

<仮説1>

地域の人々と交流する様々な活動を学習に多く取り入れれば、地域への理解が深まり、愛着をもつことができるであろう。

本研究における「地域の人々と交流する様々な活動」とは、「児童一人一人の生活を見守ったり、生活圏内で関わりを持ったりしている人々」との交流と考えた。

- ・地域の歴史や風土に詳しい人たち
- ・生活科の学習において、専門知識を持ち、アドバイスをくださる人たち
- ・いつも児童の安全を見守り、活動を応援してくださる人たち
- ・共に活動したり、学習したりする仲間
- ・同じ地域に住む人たちや、安食台小学校の上級生や下級生

児童は1年生の時に通学路内の探検を行っている。その中では、学校のまわりの自然や建物を重点的に見て回り、新たな発見をした。この時点で自然や物への興味はあるが、「人」への興味・関心はまだ高まっていない。そこで、自分たちの住む町・地域の知らない面に気付くと共に、地域の人々へ関心をもち、関わりながら取り組ませていきたいと考えた。

<手立て>

①地域素材を取り入れ、生活科学習に合った学習の設定をする。

- ・「3校の統合・自然豊かな学区」という本校の特色を生かし、児童にとって身近な興味関心から、学習素材を開発する。

②地域人材の活用と学習内容に見合った人材バンクの整理をする。

- ・「北辺田地区名人」「酒直地区名人」「ザリガニ博士」「野菜博士」といった、地域の方々の協力を得られるよう、学習単元に合わせて、地域人材の整理活用をする。

③繰り返し学習する場の設定をし、気付きや発見を地域の人と共有する。

- ・活動や体験を繰り返し行い、その中で出た疑問や気付きを、自分たちで調べたり、「〇〇名人」へ聞いたりすることで、気付きの質を高める。

3つの学校が統合して

新生安食台小学校へ！！

旧酒直小学区・旧北辺田小学区って
どんな場所なんだろう・・・？

**ザリガニがたくさんいる栄町！
野菜がたくさんとれる栄町！**

釣ってきたザリガニのこともっと
知りたいな！
僕も野菜を上手に育てたい！

児童の
思い・願い

地域人材の活用

- ・名人に聞いたら、探検だけではわからなかったことを知れた！
- ・博士のおかげで、おいしい野菜が作れたり、ザリガニが元気に育ったりした！
栄町にはすごい人がたくさんいる！

地域に愛着をもてる児童の育成

<仮説 2>

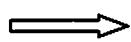
一人一人の気づきを伝え合えるような指導の工夫をすれば興味関心が高まり、主体的に活動することができるであろう。

<手立て>

児童一人一人の気づきの質を高めるためには、発達段階に応じた簡単な思考ツールを用いたり、目的意識をもって友達や地域の人へ伝えたりする場面を意図的に設定することが有効であると考えた。

①個々の気づきが他者と共有できるように、思考ツールを活用し話し合う。

○比較する○変化をとらえる
○分類する○広げる



情報の可視化 思考の方向付け
自分の考えを他者に表明できる

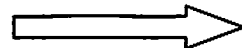
ウェビングマップ
ステップチャート
KJ 法
など

②思いや願いを活かし、伝え合い交流する場を工夫する。

- ・ペア→グループ→全体と児童の実態や学習内容に合わせて形態を変える。
- ・目的意識、相手意識を持った学習計画

<伝えたい！発信したい！>

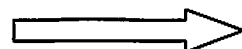
栄町の「大好き」をみんなにも知ってもらいたいな！



[台小っ子まつり]

地域の方へ発信

ザリガニがたくさんいる場所を教えてあげたい！

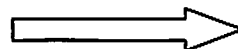


異学年への発信

探検に行くなら、ぜひ僕のおすすめの場所も見て！

<もっと知りたい！教えてほしい！>

- ・探検したら、栄町の昔のことも知りたくなった！
- ・ザリガニ釣りをしたけど、どうやって飼えば長生きするの？



[人材バンクから選択]

地域の
博士や名人と交流

4. 授業実践①

(1) 単元名 わたしの町はっけん

～酒直・北辺田・安食台の大好きを伝え合おう「この町大好き大作戦！」～

(2) 単元について

ア 単元観

本単元は、学習指導要領 生活科の内容(3)(4)(8)と関わりがあるものである。特に、

(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着を持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。

(4) 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。

という内容と深くかかわっている。

ここでは、自分たちが住み、生活している地域を歩き、探検したり、生活している人たちと交流したりすることで、地域の人や場所の良いところに気づき、地域への親しみや愛着を深めることをねらいとしている。そこで小さく地域を分け、まず自分の住んでいる地区を見直し、見つけた素敵なものや好きな場所、人を紹介する。そして、統合前の3つの小学校区を中心に3つのコースを探検し、自分の目や耳を使って、色々な人や物に触れ、もっと親しみや愛着がもてるような活動をする。

このように同じ町に住み同じ学校へ通う友だち同士でも、異なるお互いの生活圏の地区に出向き、様々な場所に行ったり、人と出会ったりすることで、栄町の色々な人や物が自分に関わっていることに気づき、更に親しみや愛着を深めることにつなげていきたい。

イ 児童の実態 (男子13名 女子13名 合計26名)

実態調査 (平成28年7月20日 実施)

1	生活科の学習は楽しいですか。	
	・楽しい	20名
	・どちらかという楽しい	6名
	・どちらかという楽しくない	0名
	・楽しくない	0名
2	どんな時にそう思いますか。(複数回答あり)	
	・学校の外へ行って学習する時	22名
	・野菜を育てている時	6名
	・グループでの活動をしている時	11名
	・探検をし、発見した時	14名
	・観察をしている時	6名
	・名人のお話を聞いたり、質問をしたりしている時	10名
3	どんなところを探検したいですか。	
	・栄町のお店	18名
	・公園	9名
	・駅の周り	5名
	・他の友達の通学路	10名

	・行ったことのない場所	12名
	・房総のむら	11名
	・酒直小学校や北辺田小学校	12名
4	探検をしたあとはどうしたいですか。	
	・ポスターを作って発表したい。	16名
	・台小っ子まつりで発表したい。	13名
	・大きな地図を作りたい。	13名
	・お家の人に教えたい	14名
	・紙芝居にしたい	10名
	・写真を飾りたい	3名
	・劇にしたい	9名

本学年は平成27年度3校の統合に伴って、酒直・北辺田・安食台の3つの学区から通学する児童がいる。森林や田園に囲まれた旧酒直小学校、旧北辺田小学校地区に比べ、安食台小学校周辺は駅や主要な公共の建物が隣接し、町並みは整備されている。このように、それぞれの住む地区で自然環境や近隣の様子は大きく異なる。また、元酒直小学校、元北辺田小学校地区の児童はスクールバスでの通学のため、それぞれの地区が離れており、放課後に遊んだり、行き来したりすることはほとんどない。

実態調査の結果を見てみると、ほとんどの児童が生活科の学習や活動を「楽しい」と感じている。また、町探検などの校外での活動をするということについても、多くの児童が「好き」と感じていることがわかる。自分たちが主体となり計画し、活動する学習を好んでいることが分かる。

2学期に行う町探検の場所としては、1学期に行った安食台小学校を中心とした範囲ではなく、普段あまり行かない場所、見たことの無い場所を挙げる児童が多かった。これは、新しい発見をしたい気持ちや、家が遠い地区の友だちの生活圏を見たいということであろう。また、閉校した2つの小学校の様子に興味を持った児童も多い。

探検後のまとめ方については、今までに経験したり、見たことのある様々な形式に興味を持ち意欲的に行いたいと考えている児童が多い。11月に行われる「台小っ子まつり」での発表を挙げた児童は、昨年度の台小っ子まつりでの上学年の発表を思い出してのことだと考えられる。

ウ 指導観

2年生の児童は、1学期に行った「春や夏の町探検」に意欲的に取り組み、普段何気なく歩いている学校周辺の春や夏の様子にたくさん気が付くことができた。また、初めて小グループを作り、一から児童で計画を立てて行動するといった経験にもなった。そして、季節ごとの発見を学級の友だちにすすんで伝えることができ、発表に対する意欲も高まっている。

そこで、2学期は27年度の3校の統合という歴史をもとにして、旧酒直小学校区、旧北辺田小学校区そして安食台小学校区に興味を持ち、お互いの生活している地区を深く知ることを2学期の全体の課題として設定する。1学期の町探検の経験を生かし、さらに視野を広げた発見の仕方や、表現の工夫をして、最終的には学級内だけでなく地域へと伝え

られるようにしたい。そして、自分たちの住む町の新しい発見や人との関わりを通して、自分の住んでいる町に愛着をもつことができる児童を育てたい。

そこで、柔軟な生活科授業をつくるため、アクティブ・ラーニング（AL）の視点を取り入れた手立てを講じていく。

①深い学びの手立て

- ①-1 栄町にまだまだ知らない場所があり、もっと知りたいという気持ちを持つことで、学習内容に迫る動機づけができるよう、導入では、お互いが生活をしたり、遊んだりしてお気に入りの場所や人、物を想起し紹介し合う。
- ①-2 酒直地区・北辺田地区・安食台地区と3回に分けて探検を行い比較することで、同じ町の中でもそれぞれの地区にある魅力に気付き、考えられるようにする。
- ①-3 各地区に住む児童を「○○(地区名)っ子名人」と呼び、他の地区の児童を案内する役割を持たせることで、自分の住む地区についてさらに詳しく知り、愛着や誇りを持てるようにする。
- ①-4 一つの地区を探検した後に、その地区に詳しいゲストティーチャー(名人)を招き、昔の様子や地区の特色をお話ししてもらい、質問に答えてもらうことで、探検してわかった気付きや思いをより深めていく。
- ①-5 11月末に行われる学校行事「台小っ子まつり」で、保護者や先生だけでなく地域の方へ各地区の魅力や発見を伝え、意見の交流をすることで、栄町への知識や愛着を深める。
- ①-6 気付きや思考の広がりをもつために、導入では「イメージマップ」、自力解決では「分類カード」などの思考ツールを活用する。

②対話的な学びの手立て

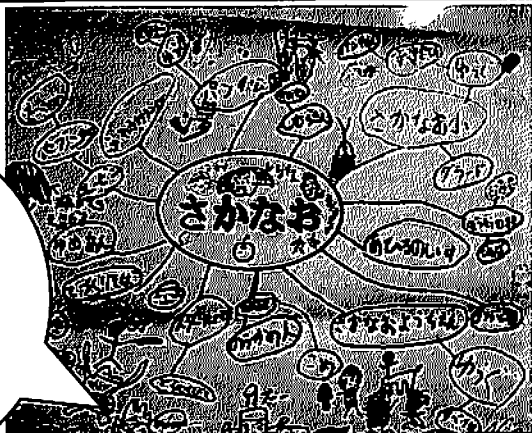
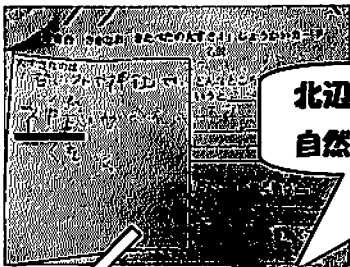
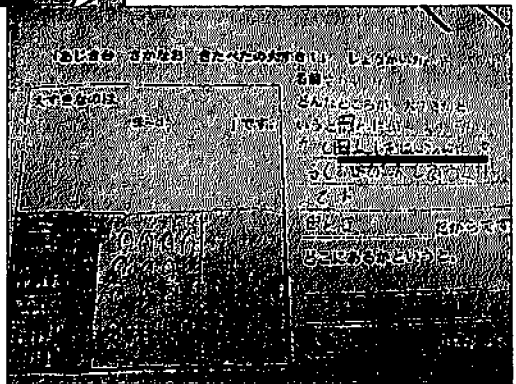
- ②-1 計画やまとめでは、個人で考える→活動グループでの話し合い→学級・学年・それ以外でのシェア（地域の方など）と相手や集団をかえて対話を重ねる。
- ②-2 探検では「春や夏の町探検」からステップアップして、地域の人との関わりを重視する。事前に考えた質問をインタビューするだけではなく、地域で生活し、働いている人々の思いを聞かせてもらい、考えを深める。
- ②-3 まとめ方や発表の仕方は、モデルを複数用意し、どれも一方的ではなく、伝え合いながら意見の交流ができるよう工夫する。

③主体的な学び

- ③-1 一人一人が「酒直」「北辺田」「安食台」からのイメージマップを作り、主体的に考えたい課題の設定をする。
- ③-2 全体で単元のめあてを共有し、この単元でどのような活動を行い、最終的にどのように周りの人へ発信していくのかといった「学びの過程」を明確にする。
- ③-3 個々の課題に対して、毎時間ふり返り(リフレクション)を行う。

(3) 学習の流れ (26時間)

<わたしの町はっけん>

	時配	主な学習活動	児童の様子
出会う	2	○栄町の昔話紹介を聞いたり、名所クイズなどのパワーポイントを見たりする。 ○酒直・北辺田・安食台の3つの地区に分かれて、大好きな場所や人・ものとそのわけを「〇〇のじまんカード」に書く。 ○「〇〇のじまんカード」を地図に配置して、他の地区グループに紹介する。	仮説2 手立て①② イメージマップを使うと、みんなの知っている酒直がいっぱい！   北辺田には古い神社や、田んぼ・自然がいっぱいあるんだね！   さすが、自分の地区にはみんなとっても詳しいね！お友達に住んでいる地区の「大好き」を、僕も見つけてみたいな！ 酒直・北辺田・安食台の大好きをもっと見つけよう！
関わる	1	探検① 安食台地区 ○安食台地区に住んでいる児童が紹介した「安食台のじまん」を見たり、更に発見したりする「町はっけん」に出かけることを相談し、計画を立てる。	 郵便局は、手紙を配達してくれたり、お金を預かってくれたりするんだね。

- 2 ○安食台の「町はっけん」に出発し、見たり、尋ねたりしながら活動する。

仮説1
手立て①

みんなの大好きな老舗
和菓子屋さん
こんな風に人気の大福
は作られてるんだ！



市役所では学校教育課の先生にご協力いただき、いろいろな場所を案内していただきました。

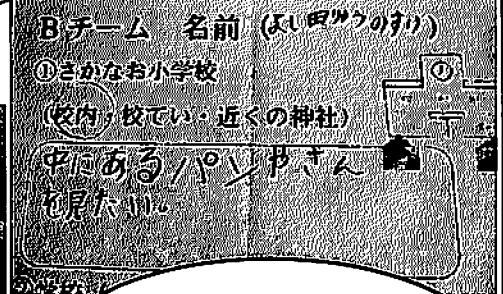
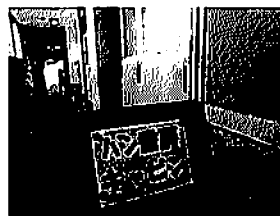
安食台はみんなの生活の中心となる施設があるんだね！！

- 1 ○安食台の「町はっけん」で発見したこと気付いたことの情報交換をする。

探検②
酒直地区

- 1 ○酒直地区に住んでいる児童が紹介した「酒直のじまん」を見たり、更に発見したりする「町はっけん」に出かけることを相談し、計画を立てる。

旧酒直小学校にパン屋さんがあって聞いたよ！



理科室に本当にパン屋さんがあった！！今度、おうちの人と来てみよ

- 3 ○酒直の「町はっけん」に出発し、見たり、尋ねたりしながら活動する。

仮説1
手立て①

旧酒直小の歴史がわかる資料室！！



旧酒直小のまわりには、昔からあるようなお地蔵様がたくさん！

- 1 ○酒直の「町はっけん」で
発見したこと気付いたことの
情報交換をする。

仮説2
手立て①②

旧酒直小はパン屋さんや資料館など今も使われていた！！

- 1 ○酒直の「町はっけん」で生じた
疑問やもっと知りたいことを
ゲストティーチャー「酒直名
人」を招きお話をしていただ
く。

仮説1
手立て②

探検③
北辺田地区

栄町の消防署長さんが酒直名人さん！

昔の酒直小の周りにいた動物や地域のお祭りについ
てたくさん教えてくれました。

- 1 ○北辺田地区に住んでいる児童
が紹介した「北辺田のじまん」
を見たり、更に発見したりする
「町はっけん」に出かけること
を相談し、計画を立てる。

ハクビシンがいるなんてびっ
くり！
安食台では見かけない生き
物がいるんだね。

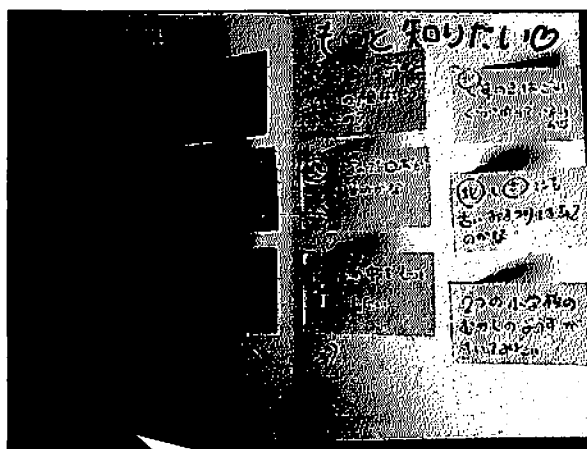


- 3 ○北辺田の「町はっけん」に出発
し、見たり、尋ねたりしながら
活動する。

仮説1
手立て①

- 1 ○北辺田の「町はっけん」で
発見したこと気付いたことの
情報交換をする。

仮説2
手立て①



(KJ法)

北辺田を探検してみて色んなことを発見したよ。
近くに住んでいる友達も、名人になって色々教えてく
れました。

..でももっともっと知りたいことが出てきました！

北辺田名人に聞いてみたいな！！

- 1 ○北辺田の「町はっけん」で生じた疑問やもっと知りたいことをゲストティーチャー「北辺田名人」を招きお話をしていただく。

仮説1
手立て②

- 4 ○発見した「酒直・北辺田・安食台の大すき」をグループごとに発表したり、伝えたりする方法や内容を相談して、その準備をする。

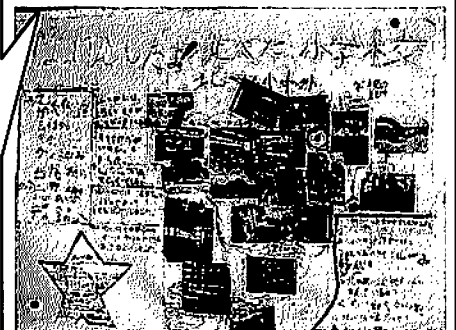
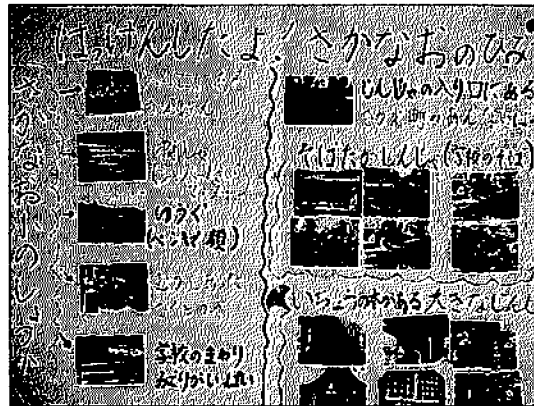
- 1 ○1年生に向けて、各地区で発見した「大すき」を紹介する。

- 3 ○「台小っ子まつり」に家の人や地域の人を呼んで、「酒直・北辺田・安食台の大すき」を伝える発表会をする。

仮説1
手立て③

せっかく酒直・北辺田・安食台のすてきなところ大好きなこと・人・物をたくさん発見したので地域の人達へ台小っ子まつりで発表しました。

北辺田小学校の体育館ができたときはね..
みんなの知らない昔の北辺田にとっても詳しい北辺田名人さん！！



授業実践②

(1) 単元名 野菜・ザリガニ名人になろう！

(2) 単元について

ア 単元観

本単元では、生き物を飼育してそれらの育つ場所・変化や成長のようすに関心を持ち、それらは生命を持っていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることをねらいとしている。

1年生では花を育てたので、2年生では収穫ができる野菜を育てる学習をした。4月当初に、育てたい野菜のアンケート（ミニトマト、ナス、キュウリ、ピーマン）を取り、一人一つ野菜を育てた。草花に比べ野菜の栽培は難しく、様々な課題に直面する児童が多くいた。

1学期に3年生から「ザリガニが見つかる場所」を聞き、ザリガニ釣りへ行く計画を立てた。そして、ザリガニ釣りの仕方や道具を調べ、釣りに行き、捕まえ、ザリガニの過ごしやすい環境を図書室等で調べ、工夫をして大事に育てる活動をした。ザリガニや野菜を育てる中で、疑問を持ったり難しさを感じたりしている。そこで、生き物の育て方に詳しい地域の人々から話を聞く活動を学習に多く取り入れ、生き物への理解が深まり、愛着を持つことができるようにしていきたい。

イ 児童の実態（男子13名 女子13名 合計26名）

本学年は平成27年度3校の統合に伴って、酒直・北辺田・安食台の3つの学区から通学する児童がいる。それぞれの地域に共通して、森林や田園に囲まれている特色がある。田んぼの用水路にはドジョウやザリガニ、めだかなどが多くいる。また田んぼや畑が多く、身近なところに様々な動植物がいる。本地域の特色から学区に生き物が比較的多く生息しており、休み時間や放課後に虫取りをしていることが多い。また、農家が多くおり、普段から畑の野菜や田んぼを目にしている。しかし、観察したり飼育方を考えたりして積極的に世話をしている様子はいくとうする様子はあまり見られない。また、飼育をしようとはするが、エサや水をあげずに放置して、そのまま死なせてしまうことも少なくはない。

ウ 指導観

生き物を飼育する環境を調べて、生き物を観察しながら、生き物に合わせてお世話する活動を行っていく。そして、1年生へ向け学習したことを発表する場を設定する。その活動に向け、生き物を育てていくが、様々な課題や難しさがあると思われる。そこで、自分たちの住む町の新しい発見や人との関わりを通して、自分の住んでいる町に愛着をもつことができる児童を育てたい。

また、柔軟な生活科授業をつくるため、アクティブ・ラーニング（AL）の視点を取り入れた手立てを講じていく。

①深い学びの手立て

①-1 その生物に詳しいゲストティーチャー（名人）を招き、専門的なことなどを話していただき、質問に答えてもらうことで、疑問や課題に対しての気づきをより深めていく。

①-2 気づきや思考の広がりをもつために、ステップチャート等の思考ツールを活用する。

②対話的な学びの手立て

②-1 計画やまとめでは、個人で考える→活動グループでの話し合い→学級・学年・それ以外でのシェア（地域の方など）と相手や集団をかえて対話を重ねる。

②-2 まとめ方や発表の仕方は、モデルを複数用意し、どれも一方的ではなく、伝え合いながら意見の交流ができるよう工夫する。

③主体的な学び

③-1 全体で単元のめあてを共有し、この単元でどのような活動を行い、最終的にどのように周りの人へ発信していくのかといった「学びの過程」を明確にする。

③-2 個々の課題に対して、毎時間ふり返り(リフレクション)を行う。

(3) 学習の流れ

<野菜名人になろう！>

	時 配	主な学習活動	児童の様子
出 会 う 関 わ る	1	○ステップチャートを用いて学習の計画を立てる。	 もっと大きくなってほしいね。 野菜によって、葉っぱの形が違うね。 どうすればおいしい野菜ができるのかな。 情報交換の中で、違いや共通点に気付いたり、難しさや疑問が生じてきたりした。 ↓  これは何の苗だと思う？
	2	○育てたい野菜などを決め、収穫を楽しみにしながら、これまでの栽培の経験を生かして、苗を植えたり、種をまいたりする。	
	2	○育てている野菜の観察をし、発見したことや気付いたことの情報交換をする。	
		仮説2 手立て② 仮説1 手立て②	

つるはどんどん伸びてくるよ。この支柱だと低すぎるからもっと長い支柱をたてるといいよ。



下の方の葉っぱは取った方がいいよ。小さな実がいくつもあつたら、元気なのを5つくらい残して取った方がいいよ。その方がおいしい野菜ができるんだ。



大きなキュウリができたけど、変な色になってしまいました。

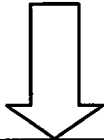
栄養や水が足りないと色が薄かったり、曲がったりしてしまうんだよ。肥料をまいて、これから水やりを頑張るね。

生
か
す

- 1 ○育ててきた野菜の成長を実感し、収穫し、収穫の喜びを味わう。
- 1 ○収穫した野菜のおいしい食べ方を考え、友達や家族、地域の人と共に考え、話し合う。
- 1 ○栽培にあたってお世話になった人に感謝の手紙を書く。

疑問に対し、野菜博士がていねいに話をしてくれたおかげで、今までよりも水やりや草抜き等を積極的に行うようになった。

<ザリガニ名人になろう！>

	時 配	主な学習活動	児童の様子
出 会 う 関 わ る	1	○ステップチャートを用いて学習の計画を立てる。	3年生からザリガニがいる場所を聞きました。 こんな近くにザリガニの住処があったんだ！ 水はどれくらい 入れたほうがい いかな。 なんで脱皮をす るんだろう。 ザリガニの色が 少し違うね。 情報交換の中で、違いや共通点に気付いたり、難しさや疑問が生じてきたりした。  ザリガニ博士の大澤さん！ ザリガニのことをたくさん教えてくれました。 
	1	○身近にいる生き物や見つかる場所を教え合い、探しに行く計画を立てる。	
	3	○生き物探しに行く準備をして、みんなで探しに行く。	
	3	○採取してきた場所を考えて、生き物の暮らしやすい住処を作り、大事に育てる。	
	2	○生き物がエサを食べて育ち、脱皮して大きくなったり、卵を産んだりする様子を観察し、自分の発見を絵や言葉などで表現する。	
	2	○育てている生物の観察をし、発見したことや気付いたことの情報交換をする。	
	2	仮説2 手立て② ○生物を育てる中で生じた疑問やもっと知りたいことをゲストティーチャー「ザリガニ博士」を招きお話をしていただく。 仮説1 手立て②	

どうしてザリガニは喧嘩をするの？



ザリガニの色が少し違うのはどうして？

ザリガニは何を食べるの？

どうして脱皮をするの？

生きるために喧嘩をするんだよ！



ザリガニは何でも食べるんだ！仲間を食べることもあるんだよ！

青いザリガニもいるんだよ！食べているものによって色が変わるんだ！

大きくなるために脱皮をするんだよ！脱皮をした後は、体がやわらかいんだよ！

生
か
す

- 1 ○お世話になった人に感謝の手紙を書く。

疑問に対し、ザリガニ博士がていねいに話をしてくれたおかげで、今までよりもエサやりや水の交換等を積極的に行うようになった。

5. 研究の成果と課題 (○成果 ▲課題)

【仮説1について】

地域の人々と交流する様々な活動を学習に多く取り入れれば、地域への理解が深まり、愛着を持つことができるであろう。

- 酒直地区・北辺田地区・安食台地区と3回に分けて探検を行い比較したことで、同じ町の中でもそれぞれの地区にある魅力に気付き、考えられるようになった。
- 春と秋で2回探検をしたことで、より季節感を感じたり、たくさんの気づきを感じたりすることができ、児童の自主的な活動につなげることができた。
- 学校行事「台小っ子まつり」で、保護者や先生だけでなく地域の方へ各地区の魅力や発見を伝え、意見の交流をしたことで、栄町への意識や愛着が深まった。
- 地域の人々と多く交流したことで、お世話になった方々が身近に感じられるようになり、保護者とその店に行ったり、進んで挨拶をしたりできるようになった。
- 地域人材を活用をしたことで、児童から生じた疑問に対して、専門的に教えてもらうことができ、意欲が高まったり、愛着をもって活動したりすることにつながった。
- 多くの交流を学習に取り入れたことで、地域の人々に関心をもち、日常の中でも関わることも多くなった。
- ▲学校行事や地域の方の予定等で、日程を調整することが難しかった。
- ▲地域の方との事前打ち合わせで、学習のねらいや活動の流れ、担任の役割などを丁寧に確認しておく、見通しをもって学習を進めていくことができると感じた。

【仮説2について】

一人一人の気づきを伝え合えるような指導の工夫をすれば興味関心が高まり、主体的に活動することができるであろう。

- 簡単な思考ツールを用いたことで、容易に比較をしたり分類したり、考えを深めたりすることができた。
- 計画やまとめで、個人で考える→活動グループでの話し合い→学級・学年・それ以外でのシェアと相手や集団を変えて対話を重ねたことで、進んで活動に参加することができる児童が多くいた。
- 全体で単元のめあてを共有し、この単元でどのような活動を行い、最終的にどのように周りの人へ発信していくのかといった目的意識を明確にしたことで、意欲的に取り組むことができた。
- ▲話し合い活動の際に、グループの人数が多すぎると、活動に参加できない児童が出たり、考えが深まらなかったりしたので、計画的に進める必要があった。